

子ども第三の居場所コミュニティモデル つながるかんでんち報告



Supported by
 日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION



つながるかんでんち



- 目的
 - 子どもたちが放課後を安心して過ごせる居場所づくり
 - 子どもたちの生きる力を育む機会づくり
- 開所状況
 - 月・水・木曜日 15:00～18:00
- 利用料金 月額6000円
- 対象 主に近隣の小学生
- 運営体制
 - スタッフ、食事・学習ボランティア

達成目標 小学生月平均15名利用

これまでの活動

- 1期目：法人設立、建物の改修、プレオープン
- 2期目：本稼働、子どもたちの受け入れ開始
- 3期目：運営体制の変更、ものづくりWS開始

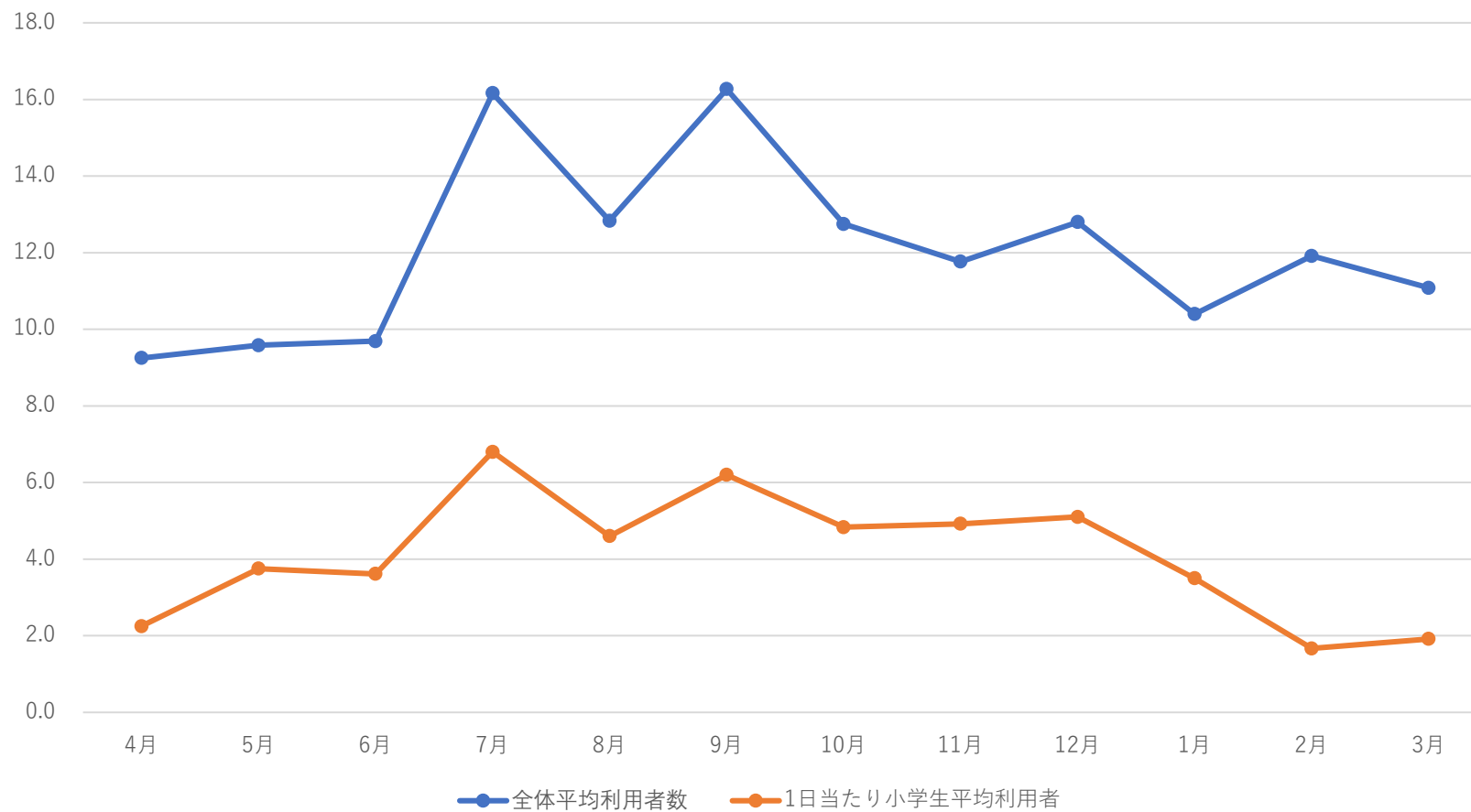


つながるかんでんちの様子



2023年度利用者実績

2023年度利用者実績



毎月1回ものづくりワークショップを開催



ものづくりWSの参加者

開催月	内容	参加者数
7月	3Dプリンタで型から作ろう！オリジナルクッキー作り体験	20名
8月	ミライのみなとまちを作ってみよう	5名
9月	レーザーカッターでキーホルダーづくり	15名
10月	カッティングマシンでオリジナルステッカーを作ろう！	11名
11月	アイデアをカタチにするプログラミングワークショップ	5名
1月	3Dプリンタで型から作ろう！クッキー型作り体験会	
2月	ミシン体験ワークショップ	
3月	生成AIを体験！ワークショップ	
3月	シルクスクリーンプリントワークショップ	

参加希望者が多くほとんどの回で定員を超える申し込みがあった

→ワークショップ参加をきっかけに、つながるかんでんちを知ってもらえる機会になり、定期的な利用につながった方もいた

活動の変化

- 利用者の親と一緒に子供たちをみてくれるようになった
- 地区の人との交流が生まれ、利用者が地域行事（やっさいもっさい、餅つき等）に参加
- 食材の寄付をいただけるようになった
→お互いの余剰分を社会福祉協議会、近隣の福祉施設とやりとり
- 月一回のものづくりWSを学校を通してチラシ配布することにより学校とつながりが生まれた
- 報告会の参加者と意見交換会を実施

この事業を通じて子どもたちの変化



地域のお祭りに地区の方と参加



ボランティアの皆さんと食事







食事の手伝い





親御さん同士の交流も



現在の状況

課題

- ・ 目標に到達していない
- ・ 現状では自立できるほどの収益がない

対応

- ・ 週末に説明会を行ったり、体験会の実施を検討
- ・ 寄付の受け入れを検討

